



建築士会

女性委員会

## 全国女性建築士連絡協議会

道北（旭川支部） 米本 一恵

7月16・17日、東京での第21回全国女性建築士連絡協議会に参加して、皆さんの熱い活発なお話を拝聴してきました。参加するたびに、全国には元気な女性建築士がたくさん居ることを感じ、パワーを貰って帰ってきます。

基調講演は「女性とまちづくり」と題して京都府立大学の宗田好史さんの、女性がまちづくりに関わることで街が活性化するなど、女性の地域に根ざした実践活動による京都のまちづくりについて講演されました。女性がプロジェクトにかかわることにより、発想が広がり、とても効果を上げている例を画像を示しながら説明していただきました。

また、引き続きパネルディスカッションにおいては歴代の女性委員長が、それぞれの委員長時代のことを話され、それを踏まえ「これからの女性建築士の目指す道」というテーマで討議されました。

今回の協議会において、これからは女性建築士の役割・社会的責任の大きさを認識し、経験と知識の

幅を広げ、暮らし作りの提案や、環境問題への取り組みなど積極的に社会に貢献していくことをアピールとして発表されました。

同時に、各都道府県の委員会活動の歩みをポスターにしたものが、ポスターセッションとして通路に展示され、各都道府県より力作が揃いました。



2日目の分科会は「E分科会歴史的な建物とまちなみ」にアシスタントとして参加しました。37名の参加者で、東京建築士会の多羅尾直子さんの「復興小学校と明石小学校保存活動」、大阪府建築士会の曾我部千鶴美さんの「旧松坂屋大阪店」について報



告があり、その後意見交換しました。全国では立場が違って、いろいろな保存活動をされている報告やそれに対する応援メッセージなど活発に意見が交わされました。

## ポスター製作とD分科会 「建物の再生活用」

吉田 幸恵

全国女性建築士連絡協議会で行われるポスターセッションのポスターを製作することになり、委員長やその他の委員の皆様から、発足以来の活動内容の資料や数々の写真を預かりました。高齢者や子どもを育む住いについてなど、どれも興味深い活動が多く、またそこに写る女性委員の皆さんの明るい笑顔が印象的でした。



1988年から始まった女性委員会の歴史を1本の木に見立てこれからもたくさんの枝葉をつけ成長していきたいという委員長はじめ、各委員のアイデアをもとに作りました。当日の全国女性建築士連絡協議会ではD分科会「建物の再生活用」に参加してきました。福島県建築士会での「中古建材フリーマーケットもったいないりさいくるりんこ」という解体前の建物からまだ使用できる建具や照明器具・棚板などその他建材を回収し、綺麗にして一般の方々に低価格で提供するというイベントの活動報告を聞きました。購入されていた方がたは、日曜大工をされている方から、演劇部の高校生まで、普段なら産業廃棄物として捨てられていたものを必要としている人達がいるという事も知ることが出来ました。建築士会全体で協力しあいゴミの減量化に取り組む姿勢はとても素晴らしく、ぜひ自分もこのような活動をしていきたいと思いました。もうひとつは、「よこはま洋館付住宅を考える会」の活動で横浜に数多く残り、築80年を迎える洋館付き住宅を一棟でも多く、地域の財産として残していくために、一軒一軒所有者の方に働きかけ、調査し、改修のお手伝いや古材の調達などを行っているとの事でした。魅力のある建物は、多くの方々を突き動かすのだなと思いました。学びの多い協議会に参加でき感謝しております。

## C分科会「健康住宅と素材」

新海 直美

岡山県美作（みさか）の地場産材を扱う「美作ネットワーク」のお話を中心に、安全・健康のためには、いつ・誰が・どこで加工した材料なのか把握できる、トレーサビリティ（追跡可能性）システムが必要ではないかという議論がされました。全国各地でも、地場産材の利用を求める声はあるものの、生産者・仲買・製材所・施工者・設計者の連携が中々うまくゆかないという問題点も挙げられました。また、シックハウスなどの問題は、建築基準法で謳われるまでにはなったが、まだまだ不足ではないかとの意見も多く聞かれました。



## E分科会「歴史的な建物とまちなみ」

本間 恵美

全国女性建築士連絡協議会で、E分科会「歴史的な建物とまちなみ」の司会を担当しました。

東京建築士会の多羅尾さんより、東京都中央区立明石小学校という、関東大震災後に建設された復興小学校の保存活動について発表がありました。報道もされており知っている方もいると思います。8月の解体が決まっていますが、「建築士が力を合わせて守ろう！」と、会場内でもたくさんの署名をいただきました。奇跡を信じていますが、この文章が皆様の元に届く頃にはどうなっているのでしょうか？

私の地元小樽にも、たくさんの古き良き建物がありました。いつの間にか空き地が増えていきます。分科会では、建物の価値を知らない人が多いという意見に皆が賛同しています。私たち建築士にできることは、建物の価値を周りの人々に伝えることだと感じました。みなさん、建築を知らない方々にすばらしい建物の価値を伝えましょう！

連合会のホームページに協議会の概要が載っていますので、是非ご覧ください。

## G分科会「高齢者と少子化社会」

東 道尾

会場は満席となり熱い分科会となりました。

大阪府建築士会は、市との協働事業である大阪市住まい情報センター「市民向けセミナー」開催の報告～地域交流でシニアライフを楽しむ。お金をかけないリフォームなど、工夫した企画のお話。ほかに築80年の長屋の耐震補強の事例紹介など。

石川県建築士会は、子育て世代対象の企画として、4歳児「石川けんしょう君」身長120cmをモデルに、ガーデニング用椅子を使い、ケンショウ君になったつもりで、建物がどのように見えるのか、どこに目線がいくのかを体験。また子育て現役、予備軍、先輩そして男性の意見、思いの違いなどを話合うことで、公共施設への要望などを、石川県が観光都市だけでなく、子育てバリアのない街になるような働きかけをしたいとの力強い意気込みを披露。多くの参加者からの意見が次々と出てきて、時間切れとなったが、参加者の地元での取り組みの参考になるようなアイデアをたくさん得ることができる分科会でした。

## 全建女H分科会「集まって住む」

山本 明恵

地域性や個人に合った「集まって住む」の様々な形態を探りながら、少子高齢社会に対応する住まいと暮らしについて、意見交換を行った。東京士会から、「港区の借り上げ住宅」に関わった報告があり、個人所有（共同住宅）の一部を区が借り上げるというもので、区としては優良賃貸住宅の基準をクリアすることで、建設費の利子補填をし、空き室保証と家賃の支払いを個人オーナーに行うシステムになっている。双方のメリットを生かすことで、代々区民として住み続けることができ、人口流出を食い止め、商店や学校など地域生活の活性化につながった事例で、参加者の関心は高かった。その他には、NPOで高齢者下宿を運営している報告や、空き室が多くなった個人所有の共同住宅の入居率アップ方法など、活発な意見交換となった。地域差はあるものの、高齢者や单身若者の住まいは変化しつつある。不況により企業の移転や商店街の衰退が問題とな

り、地域全体に活力が無くなっていく、そんな危機を誰もが感じている。新たなコミュニティーを求め「集まって住む」意義を改めて感じた分科会だった。

## 道南Bブロック（室蘭支部）

高木 宣恵

5月下旬、満開の桜も終わり始めた快晴の土曜日、道南Bブロックの女性メンバー7名で、伊達市内の施設を見学しました。まずは「道の駅だて歴史の杜」へ。ここはかつて伊達市を開拓した仙台亙理伊達家のあった7千坪の敷地内に、歴史的建造物等が集積しているところです。初めに訪れた「開拓記念館」は、昭和33年に開設されたRC造の（少しだけ）モダニズム建築の雰囲気漂わせた建物。中に入り、説明員の方から開拓時のお話を聞きながら、伊達家ゆかりの武家文化財（甲冑、刀剣、雛人形やお化粧道具等）を見学。寛永雛は、現存するものの中では最古と言われているようです。次に「迎賓館（旧伊達家住宅）」へ。ここは、開拓状況の視察で来道する政府高官や開拓使を接待するため、仙台の伊達邸を建てた大工の田中長吉を棟梁とし、明治25年に建てられた建物。在来の和風建築より階高が高く、玄関脇左手には洋間があるなど、和風の中にも西洋建築を取り入れた建物になっていました。次は「旧三戸部家住宅」（明治5年建設）へ。北海道開拓農家の数少ない遺構で、国の重要文化財に指定されているそうです（下の写真は旧三戸部家住宅前）。

最後に伊達市中心部から少し離れた有珠地区にある「善光寺自然公園」へ。文化元年、徳川幕府により東京の芝増上寺の末寺として建立されたお寺で、桜の名所としても有名です。ここではまだ少し残る桜を鑑賞することができました。

見学の終わりに、伊達市内にある京料理ひろやで昼食会。仕事のことから趣味の話まで、いろいろと話題は尽きず、楽しいひとときを過ごせました。

